



今日のトピック 中国の10月の生産、消費は予想を上回る  
過度な景気悲観論は後退する可能性

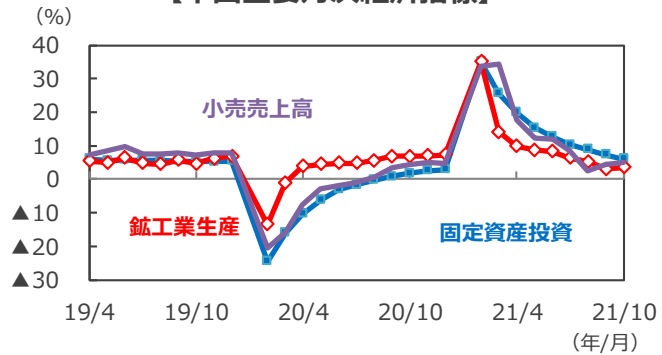
ポイント1 鉱工業生産は+3.5%  
市場予想を上回る

- 中国国家统计局は15日、10月の主要経済指標を発表しました。鉱工業生産は前年同月比+3.5%と市場予想の+3.0%をやや上回り、前月の+3.1%から伸び率が小幅に拡大しました。
- 政府の環境規制による電力供給制限や原材料高の影響で、鉄鋼やセメントなどのセクターは減少したものの、新エネルギー車や産業ロボットなどのハイテクセクターの生産は堅調でした。
- 新型コロナの影響を受けた昨年の反動を除外するため、2年間の幾何平均でみると、鉱工業生産は+5.2%（9月は+5.0%）とやや持ち直しました。

ポイント2 小売売上高も予想を上回る  
固定資産投資は減速

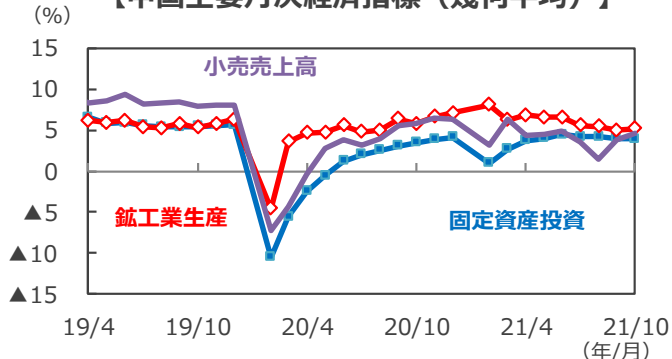
- 小売売上高も前年同月比+4.9%と市場予想の+3.7%をやや上回り、前月の+4.4%から伸び率が小幅に拡大しました。
- 10月の新たな感染者数の増加と規制にもかかわらず、労働市場の安定化の下で消費が改善しました。幾何平均ベースでも、+4.6%（9月は+3.8%）とやや持ち直しました。
- 一方、1～10月の固定資産投資は前年同期比+6.1%と、1～9月の+7.3%から伸び率が縮小しました。政府の不動産規制強化の影響などから不動産開発投資やインフラ投資が減速しました。

【中国主要月次経済指標】



(注) データは2019年4月～2021年10月。前年同月比。  
固定資産投資は年初来累積の前年同期比。  
各年2月のデータは1～2月の年初来累計の前年同期比。  
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【中国主要月次経済指標（幾何平均）】



(注) データは2019年4月～2021年10月。上記グラフの2年幾何平均。  
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 過度な景気悲観論は後退する可能性

- 10月の主要経済指標は、固定資産投資が減速したものの、新型コロナ関連の規制や電力供給不足のなかで、生産と消費が予想を上回る伸びとなったことから、過度な景気悲観論は後退する可能性があります。

ここもチェック! 2021年10月19日 中国の7-9月期GDP成長率は4.9%に減速  
2021年 9月16日 8月の中国経済は減速

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。